

南仏事件情報（8月分）

（1）テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

● ジハーディスト容疑者が逮捕（4日、ヴォークリューズ県）

4日、カルパントラ市で、21歳の男がD G S I（国内安全総局）から逮捕され、直ちに拘留された。犯人は、フランスに帰国する前に中東に滞在し、ジハーディストの一味として活動していた容疑がかけられている。

● ニース出身のジハーディストがシリアで死亡（8日、アルプ・マリタイム県）

8日、シリアのアレプにおいて、ニース出身の40歳のジハーディストが死亡した。去る7月29日、シリア軍の攻撃準備をしていた際に銃撃を受けて重傷を負って以降、昏睡状態だった。同人はかつてニースでジハードの勧誘をしており、多くの若者が彼の影響を受けてフランスを去った。ニースにおけるジハード勧誘は、1年前から別の人間が担当している。

● モスクが放火される（23日、ジェール県）

23日午前3時頃、ジェール県オシュ市のモスクが、放火の被害に遭い、建物の4分の3が焼失した。死傷者はいなかった。

（2）殺人（邦人被害なし）

● 女学生の腐乱死体発見、4人拘束（3日、オート・ガロンヌ県）

3日、トゥールーズ市のアパートの一室で、23歳の女学生がトランクの中に詰め込まれた状態で死亡しているのが発見された。遺体はすでに腐敗していた。2週間連絡が取れずに心配した母親と友達が女性学生のアパートを訪ねたことで事件が発覚した。女学生の携帯電話は電源が切られていた。

5日、警察は4人の若者を拘束した。犯人の1人が警察に出頭して犯行を自供、その供述に基づき残りの3人を拘束した。

その後の調べによると、犯人らと被害者は麻薬密売グループの一員で、7月26日夜、被害者のアパートで、被害者が作った6,000ユーロの取引の損失をめぐる争いとなった模様。犯人らは酸性の薬品で遺体を溶かそうと試みるなどした。

- 路上で男性が殺害される（6日、ブーシュ・デュ・ローヌ（BDR）県）
6日9時30分頃、マルセイユ市12区の路上で、ケーキ屋の店員が襲撃を受けて殺害された。被害者は52歳の男性で、背中から8発の銃撃を受け、うち5発は頭部に命中した。犯人は、共犯者とともにバイクに乗って逃走した。被害者は、武装強盗の罪で収監され、2012年に出所していた。

- 城砦で遺体発見、捜査開始（13日、オート・コルス県）
13日朝、カルビ市の城砦の麓で、男性の遺体が発見された。散歩をしていた観光客が発見。憲兵隊による捜査が開始されている。

- ナイフでの喧嘩、1人死亡（23日、BDR県）
23日17時頃、オーバーニュ市で、2人の男性が口論の末ナイフで切りつけ合い、1人が胸を刺されて死亡した。

（3）その他特異事件等（邦人被害なし）

- 偽消防士と偽警察官に注意（4日、BDR県）
4日、マルセイユ市4区で、72歳女性の自宅に消防士を名乗る男が現れ、配管工事を申し出て屋内に入った。その直後、2人の警察官を名乗る男が現れ、同女に対し「さっきの消防士は偽物である。貴重品が盗まれていないか確認を。」と促し、同女が現金と貴金属を取り出した瞬間、それらを奪って逃走した。同じくオーバーニュ市でも、87歳女性が偽消防士と偽警察官による詐欺に遭い、現金を奪われた。

- 家屋が爆破される（5日、オート・コルス県）
5日、バステリア市郊外で、一軒家がプラスチック爆弾で爆破された。死傷者はいなかった。破壊された家屋には「FLNC（コルシカ解放戦線）」の落書きがなされていた。被害家屋は、島外に住む会社社長が数年前に購入したもので、バカンス用に改築され貸し出されていた。

こうした爆破は、今年2月と3月にもバステリア市周辺で発生している。

- 強姦の被害届、40分に1回（11日、フランス）
フランスでは、毎日平均33件の強姦の被害届がなされている。40分

に1回の計算になる。過去5年で、強姦の被害届出件数は18%上昇し、うち未成年者に対する強姦は上昇率が20%を超えている。関係者によると、強姦被害の届出率は10%程度だという。

● 1万ユーロ相当の麻薬押収（12日、BDR県）

12日0時45分頃、マルセイユ市15区で、警察は麻薬密売組織を摘発した。路上の階段に隠れていた男が所持していたバックから、4kgの大麻樹脂とマリファナ、けん銃1丁が見つかった。マルセイユ北部では麻薬の密売が常態化しており、15区を例に挙げると密売の売り上げは一日に5万ユーロに及ぶと言われている。

● 幼稚園が蹂躪（17・23日、アルプ・マリティム県）

17日、ニース市にある幼稚園で、教室や食堂などが踏み荒らされているのが発見された。椅子や机はひっくり返され、飲みかけの酒の瓶やタバコの吸い殻が放置されていた。パソコンなどの貴重品は盗難されていなかった。この数日で、アルプ・マリティム県では4校が被害に遭っていることが判明した。その後、21日、幼稚園や小学校4校を破壊した罪で、13～14歳の少年3人が逮捕された。

ニース市では、3月末にも小学校が荒らされる事件が発生しており、少年3人が逮捕されている。

● スリ：7週間で36人を検挙（20日、アルプ・マリティム県）

ニース市警察は、7月1日以降、スリ容疑で36人を検挙した。そのうち14件は電車やバス内での犯行だった。ニース市には1,031台のカメラがあり、電車にも178台のカメラが設置されている。

● 洪水で2名死亡（23日、エロー県）

23日、モンペリエ市で、洪水で車が流され、乗車していた80歳代の男女2名が亡くなった。当時、エロー県とガール県は、豪雨と洪水の警戒下にあった。

● 運転手が罾に掛けられる（27日、BDR県）

27日22時頃、マルセイユ市のカラंक（ソルミュ）を車で通行していた52歳の女性が、横転したスクーターとその脇に転倒していた男性らを発見し、これを助けようと車外に出たところ、同人らから襲いかから

れ、貴金属と車を強奪された。

● スーパーマーケット強盗の逃走劇（29日、BDR県）

29日午前7時頃、マルセイユ郊外セプテム・レ・バロン市のスーパーマーケットに、黒い覆面で顔を隠した4人の武装強盗が乱入した。強盗は従業員を脅し、約15,000ユーロの入った金庫を、店の前に止めていた車に運ばせた。強盗団は、駆けつけたパトカーから追跡され、マルセイユ市15区の公園脇に車両を放置し、徒歩で逃走した。その後強盗団は走行中の車を奪い、警察の追跡を振り切って逃走した。強奪された車は、翌朝マルセイユ市2区の路上で発見された。

● 9人が起訴（31日、BDR県・ガール県）

31日、オート・サヴォア県アヌシー市の金融機関を襲撃する計画を練っていたとして、マルセイユ市の30～50歳の男9人が予審にかけられた。捜査の過程で、警察はカラシニコフ4丁をはじめけん銃や弾丸3,000発を押収した。また、ガール県でも庭に埋められていた武器庫を発見した。この計画には、8月6日にマルセイユ市12区で8発の銃撃を受けて殺された52歳の男も関わっていたと考えられている。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。